

国連のクチレス事務総長が27日の記者会見で「地球温暖化の時代は終わらず、地球沸騰化の時代が到来した」と述べました。同日、世界気象機関（WMO）などが今年7月は観測史上最も暖かい月となる見通しを発表したことを受けたの驚きです。クチレスは「異常気象が『新たな正常』になつたのではないか」と指摘しました。同時に「私たちにはまだ最悪の事態を食い止めねば」と強調し、各国に具体的行動を呼びかけました。

気候危機打開に向けた取り組みの抜本的強化は待ったなしです。

人間活動が引き起こした

欧洲、北米、アジアをはじめ世界各地は熱波に襲われ、山火事などの被害が発生しています。日本

地球沸騰化の時代

主張

も災害級の猛暑が続き、熱中症で亡くなる人も相次いでいます。

WMOと欧州連合（EU）の気象情報機関「コメルニクス気候変動サービス（Ccos）」の発表によると、7月は23日までの、冬季である翌年も含めた地球全体の平均気温は16・95度でした。これ

も災害級の猛暑が続き、熱中症で亡くなる人も相次いでいます。

トロピカル・ウォーム（WWF）は

25日、北米や欧州、中国での7月の熱波は、人間の活動が引き起

した気候変動に伴う異常現象だと分析する報道をまとめました。

WWFは「化石燃料の燃焼を一刻も早く止しなければ、より高温

現象で強調したのは、各国の果たすべき役割です。とくに20カ国・地域

CO₂が世界の温室効果ガス排出の8割に責任を負っていると指摘

深刻な警告 今こそ対策強化を

まで最も平均気温が高かった2019年7月の16・63度を上回る見込みとしています。

Cosの担当者は、高温という人為的な温室効果ガスの排出が主因になっているとの見方を示したと報じられています。

6次統合報告書」を公表しま

た。同報告書は、上記を1・5度

で最期間にわたる熱波が発生する」と警鐘を鳴らします。

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は2017年、世界の平均気温は産業革命からすでに1・1度上昇してしまった。「第5回評議書」を設定する目標や、化石燃料から

再生可能エネルギーへの転換を進める目標は、石炭火力から決別

しなら」と訴えました。その上で、野性的な排出削減目標を新たに設定する目標や、化石燃料から

再生可能エネルギーへの転換を進める目標を大幅に早く出すべきであることを求めました。各

は真剣に受け止まなければなりません。

日本政府は責任を果たせ

ます。しかし、日本をはじめ各国が

日本は今年の主要7カ国首脳会議（G7サミット）議長国です。

しかし、5月の首脳声明では、気

候変動の焦躁課題である石炭火力

記されませんでした。石炭火力に

固執する日本政府が抵抗したため

て撤回されています。世界の足を

引く張りの姿勢は議長国としての資

格が問われます。

岸田政権は石炭火力から決別

に市井